

まちづくり交付金 事後評価シート
中地区

平成19年12月

兵庫県多可町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県	市町村名	多可町	地区名	中
計画期間	平成16年度～平成19年度	まちづくり交付金交付期間	平成16年度～平成19年度		
モニタリング実施時期		事後評価実施時期	平成19年4月～平成19年12月	フォローアップ実施時期	平成20年9月～10月

1) 事業の実施状況	当初計画どおり実施した事業	町道県民余暇村公園線,町道奥中7号線,町道奥中1号線,町道役場公民館線,町道丘山渡瀬橋線,町道奥中団地
	当初計画から変更した事業 (変更した内容)	町道東山3号線,町道多可高校線,町道鍛冶屋7号線,町道中村町7号線
	変更した理由、目標・数値指標への影響等	町道中村町7号線他3路線の事業廃止に伴い歩行空間整備率及び歩行移動時間を下方修正した。

2) 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況	指標		達成度			達成見込みの有無		効果発現要因
	指標	単位	モニタリング	事後評価	フォローアップ	あり	なし	総合所見
指標1	歩行空間整備率	%						歩行者の安全確保がはかられ主要施設を結ぶネットワークの形成ができた。また、散策コースとしての機能を併せ持ち住民相互の交流に寄与している。
指標2	歩行移動時間	分						歩行者の安全確保がはかられ主要施設を結ぶネットワークの形成ができた。また、散策コースとしての機能を併せ持ち住民相互の交流に寄与している。
指標3	建替町営住宅入居者平均年齢	歳						入居者の平均年齢が若返り、団地内の新たな交流が深まり、地域が活性化した
指標4	来訪者数	人/年		×				県民余暇村公園の陳腐化により事業効果が発揮出来なかった。

3) その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		数値			効果発現要因
	その他の数値指標1	単位	基準年度	モニタリング	事後評価	フォローアップ	総合所見	
その他の数値指標1	那珂ふれあい館来訪者数	人/年	1.4万	16		1.6万		埋蔵文化財の保存・展示といった歴史資料館としての機能とともに学習機能なども兼ね備えた施設であり、多可町の交流拠点となっている。多可町の歴史を学ぶことにより地域に関心を持ち、強いては地域コミュニティの形成にも繋がった。

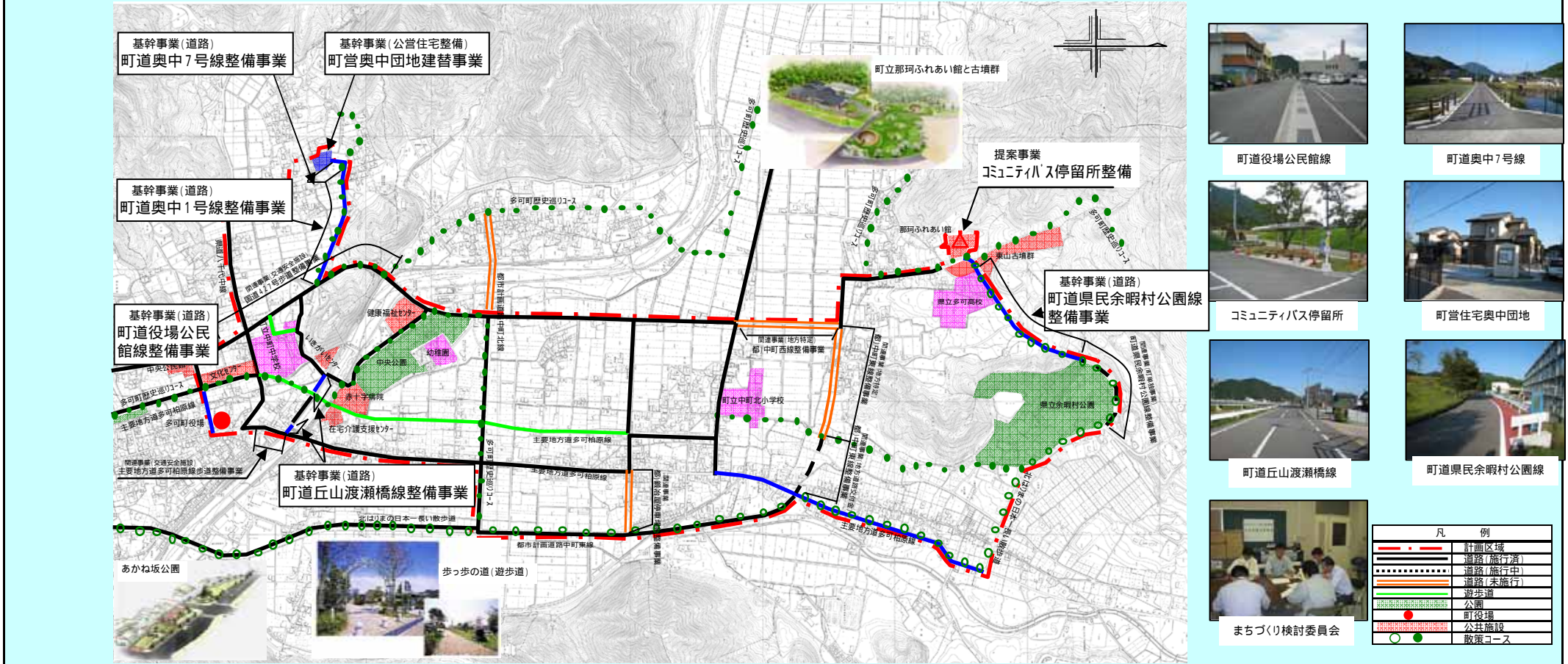
4) 定量的に表現できない定性的な効果発現状況	地域住民と道路及び住宅建設にあたり協議を重ね、行政と住民とが一体となり事業に取り組めた結果、今後のまちづくりをする土台に繋がった。
-------------------------	---

5) 実施過程の評価	評価項目	実施内容	実施状況			今後の対応方針等		
	モニタリング	—		予定どおり実施できた	-----	予定していなかったが実施した	-----	予定したが実施しなかった・できなかった
住民参加プロセス	むらづくり協議会の実施 地域協議会の実施		予定どおり実施できた	-----	予定していなかったが実施した	-----	予定したが実施しなかった・できなかった	今後も地域主体の取り組みを継続していきたい。
持続的なまちづくり	むらづくり協議会の継続 地域協議会の継続		予定どおり構築できた	-----	予定していなかったが構築した	-----	予定したが構築しなかった・できなかった	今後も有効的に活用、運用していきたい。

様式2 - 2 まちづくり交付金の成果及び今後のまちづくり

中地区(兵庫県多可町) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	歴史街道をつなぐ、都市・田園・歴史・自然のまちづくり	まちづくり交付金の代表的成果	歩行空間整備率(単位:%)	() 64.2(H16) 90.3(H20)
			歩行移動時間(単位:分)	() 17(H16) 14(H20)
			建替町営住宅入居者平均年齢(単位:歳)	() 50.1(H16) 39.5(H20)



今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	安全で快適な歩行者道の整備	交通安全への意識啓発防災意識の向上
	・休憩できるベンチ、木陰などを整備し更なる利用促進をはかる	・避難路の確認
	地域コミュニティの更なる形成	・地域活動への積極的な参加
	・地域の担い手の育成	・高齢者に配慮したシルバーハウジング
	生涯学習活動	
	・体験型学習等による生涯学習活動の促進	

まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2 - 都市再生整備計画変更の理由・指標への影響
- 添付様式3 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式3 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式3 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式4 - モニタリングの実施状況
- 添付様式4 - 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式4 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式5 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式5 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式5 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式6 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式6 - まちの課題の変化
- 添付様式6 - 今後のまちづくり方策
- 添付様式6 - フォローアップ計画
- 添付様式7 - まちづくりの成果の他地区への活用

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式8 - 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式9 - まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式10 - 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標					
B. 目標を定量化する指標					
C. 目標値			歩行空間整備率99.2% 歩行移動時間12分	歩行空間整備率90.3% 歩行移動時間14分	町道中村町7号線他3路線の事業廃止に伴い歩行空間整備率を下方修正した。 町道中村町7号線の事業廃止に伴い中区奥中地域から防災拠点である中央公園までの歩行移動時間を下方修正した。
D. その他()					

土地区画整理事業											
市街地再開発事業											
地区再開発事業											
バリアフリー環境整備促進事業											
優良建築物等整備事業											
優良建築物等整備事業											
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型										
	沿道等整備型										
	密集住宅市街地整備型										
	耐震改修促進型										
街なみ環境整備事業											
住宅地区改良事業等											
都心共同住宅供給事業											
公営住宅等整備	町営奥中団地	422	26戸	422	26戸	-		314			
都市再生住宅等整備											
防災街区整備事業											

注：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(単位:百万円)

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要	変更された 目標との対応	実績(事業費)		事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			事後評価 見込み	フォローアップ	完成	完成見込み
地域創造 支援事業	コミュニティバス停留所整備	4	停留所4カ所	4	停留所4カ所	-		2			
	車両用誘導標識設置	2	中町西線東線交差点	2	中町西線東線交差点	-		0		-	-
	公営住宅整備事業	30	奥中団地	30	奥中団地	-		70			
事業活用調査											
まちづくり 活動推進事業	歩行者用案内標識設置	2	歴史街道散策コース	2	歴史街道散策コース	-		0		-	-

(単位:百万円)

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
地方道路整備臨時交付金		都市計画道路中町東線	140	140	H16年度～H18年度	H16年度～H19年度	事業完成予定、H19年度末には供用開始を予定	-
地方特定道路		都市計画道路中町東線	120	120	H15年度～平成18年	H15年度～平成20年	用地買収の遅れ及び他事業との関連により事業期間を延伸する	-
地方特定道路		都市計画道路中町西線	205	205	H16年度～平成19年	H16年度～平成21年	用地買収の遅れ及び他事業との関連により事業期間を延伸する	-
地方特定道路		都市計画道路鍛冶屋停車場線	180	180	H16年度～平成19年	H16年度～平成20年	用地買収の遅れ及び他事業との関連により事業期間を延伸する	-
交通安全施設等整備事業		国道427号	200	200	H12年度～平成17年	H12年度～平成17年	事業完了、歩行者の安全が確保できた	-
交通安全施設等整備事業		主要地方道中柏原線	90	90	H16年度～平成17年	H16年度～平成17年	事業完了、歩行者の安全が確保できた	-
町単独事業		町道余暇村公園線	13	13	H16年度	H16年度	事業観完了、歴史・自然ゾーンに位置する散策道の整備が出来た。	-
まちづくり活動		町内	14	14	H16年度～平成18年	H16年度～平成18年	住民主体のまちづくりに繋がった。	-

添付様式2 都市再生整備計画変更の理由・指標への影響(特に大きな変更があった場合について)

事業	箇所名	変更した理由、目標・数値指標への影響
道路	町道東山3号線	平成17年11月1日の合併後、多可町総合計画策定にあたり道路網の検討が余儀なくされ、本事業区間においても見直しが必要となった。よって、本路線の実施を見送り、まちづくり交付金事業から削除しました。 指標:歩行空間整備率に影響あり。
道路	町道多可高校線	補償物件の移転交渉に時間を要するため、まちづくり交付金事業期間に事業を完了することが困難な為、本路線の施工を見送りました。 指標:歩行空間整備率に影響あり。
道路	町道鍛冶屋7号線	平成17年11月1日の合併後、多可町総合計画策定にあたり道路網の検討が余儀なくされ、本事業区間においても見直しが必要となった。よって、本路線の実施を見送り、まちづくり交付金事業から削除しました。 指標:歩行空間整備率に影響あり。
	町道中村町7号線	地権者と用地等に係る事前交渉が難航し事業期間内に事業を完了することが困難になり、本路線の実施を見送り、まちづくり交付金事業から削除しました。 指標:歩行空間整備率、歩行移動時間に影響あり。

添付様式3 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標		単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		達成度		達成見込みの有無		
				基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	事後評価	確定 見込み	数値	事後評価	あり	なし			
指標1	歩行空間整備率	%	事前評価時の「従前値」の計測方法と同様で平成19年度の歩行空間整備率を求めた。 歩行空間整備率: 計画区域内の中町東線他主要路線延長に対する歩行空間整備済み延長の割合。	-	-	64.2	H16	90.3	H19	モニタリング		モニタリング				
										事後評価	確定 見込み	90.3	事後評価			
										フォローアップ		フォローアップ				
指標2	歩行移動時間	分	事前評価時の「従前値」の計測方法と同様で平成19年度の歩行移動時間を求めた。 歩行移動時間: 町営住宅奥中団地の立地する中区西部ゾーンから防災拠点である町民グラウンドまでの移動時間	-	-	17	H16	14	H19	モニタリング		モニタリング				
										事後評価	確定 見込み	14	事後評価			
										フォローアップ		フォローアップ				
指標3	建替町営住宅入居者平均年齢	歳	町営住宅管理台帳により過去に建設した町営住宅の入居状況を参考に、平成19年度末完成の奥中団地への入居者数及び年齢を整理し、入居者の平均年齢を求める。	-	-	50.1	H16	45	H19	モニタリング		モニタリング				
										事後評価	確定 見込み	39.5	事後評価			
										フォローアップ		フォローアップ				
指標4	来訪者数	人/年	事前評価時の「従前値」の計測方法と同様で平成19年度の県立余暇村公園及び町立那珂ふれあい館への来訪者を求める。 来訪者数: 県立余暇村公園管理事務所及び多可町教育委員会の統計調査により、来訪者数を求める。なお、未確定な月別データは過去の実績より推計する。	-	-	22万	H16	25万	H19	モニタリング		モニタリング				
										事後評価	確定 見込み	20万	事後評価			×
										フォローアップ		フォローアップ				

(参考) 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね5年程度前)の値のことをいう。

添付様式3 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標		単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)	代替指標として用いるか	代替する指標	代替指標と		
					基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	那珂ふれあい館来訪者数	人/年	平成19年度の来訪者数を多可町教育委員会の統計調査により求める。なお、未確定な月別データは過去の実績より推計する。	-		1.4万	H16	モニタリング	代替指標とする	指標4:来訪者数の代替として用いる	近年、多可町全		
								事後評価				確定	1.6万
												見込み	
							フォローアップ	代替指標としない			者数が減少するコミュニティノ道整備を通して集した為、郷土の歴那珂ふれあい館が増加し、自然まじ交流を深めてい		
その他の数値指標2								モニタリング	代替指標とする				
								事後評価				確定	
												見込み	
							フォローアップ	代替指標としない					
その他の数値指標3								モニタリング	代替指標とする				
								事後評価				確定	
												見込み	
							フォローアップ	代替指標としない					
その他の数値指標4								モニタリング	代替指標とする				
								事後評価				確定	
												見込み	
							フォローアップ	代替指標としない					

(参考)計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね5年程度前)の値のことをいう。

添付様式3 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

地域住民と道路及び住宅建設にあたり協議を重ね、行政と住民とが一体となり事業に取り組めた結果、今後のまちづくりをする土台に繋がった。

達成見込みの 根拠

なりうる理由

域における来訪
なか本事業によ
バス停留所・町
事業効果が発現
歴史を核とした
への来訪者数
学生型体験を通
じる。

(2) 実施過程の評価

添付様式4 - モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した予定内容	実施状況	実施結果	今後の対応方針等
_____	予定どおり実施できた		
	予定していなかったが実施した		
	予定したが実施しなかった・できなかった (理由:)		

添付様式4 - 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した予定内容	実施状況	実施結果	今後の対応方針等
むらづくり協議会の実施	予定どおり実施できた	奥中地区 実施頻度: 6回/年 実施時期: 平成16年度～平成19年度 実施の効果: 田舎の風土に溶け込んだ素朴なむらづくりを目標に、次代を担う子供たちを育成する土壌づくり。	今後も地域主体の取り組みを継続していきたい。
	予定していなかったが実施した		
	予定したが実施しなかった・できなかった (理由:)		
地域協議会の実施	予定どおり実施できた	中区 実施頻度: 7回/年 実施時期: 平成17年度～平成19年度 実施の効果: 住民主体のまちづくり、住民と行政との連携を強化	今後も地域主体の取り組みを継続していきたい。
	予定していなかったが実施した		
	予定したが実施しなかった・できなかった (理由:)		

添付様式4 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した予定内容	構築状況	実施結果		今後の対応方針等
		構築のための取組内容	まちづくり組織名：組織の概要	
むらづくり協議会の継続	予定どおり構築できた	奥中の伝統行事である「稲の虫送り」行列、ログハウス造り等の実施により地域交流がより発展した。	奥中むらづくり協議会 地域が主体的にコミュニティの形成に取り組んでいる。	今後も有効的に活用していきたい。
	予定していなかったが構築した			
	予定したが実施しなかった・できなかった (理由：)			
地域協議会の継続	予定どおり構築できた	地域づくりは住民が行い行政が支援し、住民と行政が協働のばを醸成する目的で設置された協議会の発展に寄与した。	旧町単位の地域協議会 住民による地域活動、住民からの提案、住民と連携する組織づくり等住民が主体となり運営している。	今後も有効的に活用していきたい。
	予定していなかったが構築した			
	予定したが実施しなかった・できなかった (理由：)			

注：本様式は、都市再生整備計画に記載した予定内容の有無に関わらず、実施した場合には記載すること。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式5 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	構成員	実施時期	担当部署
町内の横断的な組織 (まちづくり交付金事業検討委員会)	企画情報課、住民生活課、建設課	平成19年10月11日	建設課(まちづくり交付金担当課)

添付様式5 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		その他の数値指標1	
指標名		歩行空間整備率		歩行移動時間		建替町営住宅入居者平均年齢		那珂ふれあい館来訪者数来訪者数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路 町道県民余暇村公園線	A	歩行者の安全確保がはかられ主要施設を結ぶネットワークの形成ができた。また、散策コースとしての機能を併せ持ち住民相互の交流に寄与している。	-	町営奥中団地の立地する奥中地区から防災拠点である中央公園とのアクセスが不十分であるため、歩行移動時間の短縮を目指したものであり、町道奥中1号線及び奥中7号線の整備により目標とする移動時間の短縮ができた。	-	入居者の平均年齢が若返り、団地内の新たな交流が深まり、地域が活性化した	A	埋蔵文化財の保存・展示といった歴史資料館としての機能とともに学習機能なども兼ね備えた施設であり、多可町の交流拠点となっている。多可町の歴史を学ぶことにより地域に関心を持ち、強いては地域コミュニティの形成にも繋がった。
	道路 町道奥中7号線	A		-		B			
	道路 町道奥中1号線	A		-		B			
	道路 町道役場公民館線	A		-		-			
	道路 町道丘山渡瀬橋線	A		-		-			
	公営住宅等整備 町営奥中団地	-		-		A			
提案事業	地域創造支援事業 コミュニティバス停留所整備	-	-	-	-	A			
	地域創造支援事業 車両誘導標識設置	B	B	-	B				
	地域創造支援事業 公営住宅整備事業	-	-	A	-				
	まちづくり活動推進事業 歩行者用案内標識設置	-	-	-	-				
関連事業	地方道路整備臨時交付金 都市計画道路中町東線	A	-	-	B				
	地方特定道路 都市計画道路中町東線	A	-	-	B				
	地方特定道路 都市計画道路中町西線	A	-	-	B				
	地方特定道路 都市計画道路鍛冶屋停車場線	A	-	-	-				
	交通安全施設等整備事業 国道427号	A	B	-	-				
	交通安全施設等整備事業 主要地方道中柏原線	A	-	-	-				
	町単独事業 町道余暇村公園線	A	-	-	A				
	まちづくり活動 町内	-	-	B	B				

今後の活用	安全で快適な歩行者道の整備 ・休憩できるベンチ、木陰などを整備し更なる利用促進をはかる ・交通安全への意識啓発	防災意識の向上 ・地域が主体となった防災訓練の実施 ・避難路の確認	地域コミュニティの更なる形成 ・地域の担い手の育成 ・地域活動への積極的な参加	生涯学習活動 ・体験型学習等による生涯学習活動の促進
-------	---	---	---	-------------------------------

注：都市再生整備計画で実施予定とした各事業を、事業名・箇所名の欄に記載してください。

添付様式5 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標4									
指標名		来訪者数									
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度
基幹事業	道路 町道県民余暇村公園線	—	近隣に同種の施設が多数出来、来訪者のニーズに対応した施設整備が出来なかった。								
	道路 町道奥中7号線	—									
	道路 町道奥中1号線	—									
	道路 町道役場公民館線	—									
	道路 町道丘山渡瀬橋線	—									
	公営住宅等整備 町営奥中団地	—									
提案事業	地域創造支援事業 コミュニティバス停留所整備	—									
	地域創造支援事業 車両誘導標識設置	—									
	地域創造支援事業 公営住宅整備事業	—									
	まちづくり活動推進事業 歩行者用案内標識設置	—									
関連事業	地方道路整備臨時交付金 都市計画道路中町東線	—									
	地方特定道路 都市計画道路中町東線	—									
	地方特定道路 都市計画道路中町西線	—									
	地方特定道路 都市計画道路鍛冶屋停車場線	—									
	交通安全施設等整備事業 国道427号	—									
	交通安全施設等整備事業 主要地方道中柏原線	—									
	町単独事業 町道余暇村公園線	—									
	まちづくり活動 町内	—									

改善の方針 (記入は必須)	<p>「都市と農村との交流」を実効性のあるものにするため、交流の輪を拡大していく、そのためには伝統行事や既存のイベントなど今ある交流機会を充実させるほか、新たなイベントの企画などにより、集客効果やにぎわいの拡大を図っていく。</p> <p>イベント等の町内外への発信手法の構築。</p> <p>ソフト事業をさらに積極的に進めるとともに、合併の効果を生かした広域的な取り組みにより、来訪者の増加に努める。</p>			
------------------	---	--	--	--

注：都市再生整備計画で実施予定とした各事業を、事業名・箇所名の欄に記載してください。

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式6 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	構成員	実施時期	担当部署
町内の横断組織による検討会 (まちづくり検討委員会)	企画情報課、住民生活課、建設課	平成19年10月11日実施	建設課(まちづくり交付金担当課)

添付様式6 - まちの課題の変化

事業前の課題	達成されたこと	事業後に残された未解決の課題
基幹道路を結ぶ町道において、歩道が整備未整備であり、安全な歩行者ネットワークが十分な状況ではない	歩行者の安全確保が図られた。 主要施設を結ぶネットワークが形成された。	ベンチ・植栽等の整備により豊かな自然を満喫し利用者の心を癒し、歩く楽しみが生まれるように更に工夫が必要である。
町営住宅の住環境の向上と需要層に対応した新たな住宅の確保	新たな入居者との交流により、地域が活性化した。 豊かな自然に調和した住環境の整備を行った結果、居住性が向上した。	むらづくり協議会及び子供会活動等への積極的な参加を促進し、更に交流を深める。 団地内の自主的な清掃活動の実施。
自然や歴史を核とした地域交流の促進	世代間交流による地域コミュニティの形成。 多可町の歴史・文化を再認識することにより心のリフレッシュに繋がった。	町内外への情報発信 地域住民の主体的な取り組みによる交流機会の創出
事業によって発生した新たな課題		
<p>「今後のまちづくりにおいて自分でできること」を実施に移す。 地域の花いっぱい運動や清掃・美化活動の実施。 地域の交通安全や防犯活動への気運をより一層高める。</p>		

添付様式6 - 今後のまちづくり方策

項目	基本的な考え方	想定される事業
まちの景観をさらに美しく	わがまちの景観をいっそう美しくするための取り組み	自主的な清掃活動 景観に配慮した住居等の環境整備 自然豊かな里山整備と有効活用 景観に配慮した街路樹の統一
ともに生きる	地域資源が循環するまちづくりを目指す。 住みよい住環境をつくる	地域産木材の公共施設、公営住宅等への活用。 若い世代をはじめとする定住を促進するため、住宅供給や公園整備など住みよい住環境の整備。 新旧住民によるコミュニティーの形成

とくに改善すべき項目については、別途右欄に必要な事業を記入することとする



まちづくりの目標の達成に必要な事業
公営住宅の入居者と地域住民との交流 むらづくり協議会等への積極的な参加によりふれあい豊かなコミュニティーを育成する。

添付様式6 - フォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式3 - 、3 - に記載して全ての指標について記入して下さい。
 ・目標値、評価値、達成度は添付様式3 - 、3 - から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の指標及び達成度 × の指標は、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		達成度	フォローアップ計画		
				目標年度		目標年度				予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	歩行空間整備率	%	64.2	H16	90.3	H19	確定 見込み	90.3				
指標2	歩行移動時間	分	17	H16	14	H19	確定 見込み	14				
指標3	建替町営住宅入居者平均年齢	歳	50.1	H16	45.0	H19	確定 見込み	39.5		H20年9月	従前値の計測手法と同様に奥中団地完成後の入居者数及び年齢を整理する。	
指標4	来訪者数	人/年	22万	H16	25万	H19	確定 見込み	20万	×	H20年9月	平成19年度の栗立余暇村公園への来訪者を求める。 達成見込み無しのため、その他指標1を代替指標とする。	
その他指標1	那珂ふれあい館来訪者数	人/年	1.4万	H16			確定 見込み	1.6万		H20年9月	平成19年度の町立那珂ふれあい館への来訪者を求める。 指標4の代替指標	
その他指標2							確定 見込み					
その他指標3							確定 見込み					

添付様式7 まちづくりの成果の他地区への活用

地区名	活用した内容
なし	

(5) 事後評価原案の公表

添付様式8 事後評価原案の公表

公表時期	公表方法
平成19年10月24日～平成19年11月6日	ホームページに掲載及び建設課(まちづくり交付金担当課)窓口で閲覧による公表。

住民の意見	なし
-------	----

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式9 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成	実施時期	担当部署
・滋賀県立大学准教授 森川 稔 ・奥中区長 真鍋 重信 ・中町中学校校長 吉田明生 ・産業建設常任委員会委員長 河崎 一	平成19年11月26日	建設課(まちづくり交付金担当課)

主な意見と対応

事後評価の手続き及び内容は妥当であると意見をいただいた。
事業の実施状況・・・現地視察を行い事業内容を確認いただいた。
整備計画変更の理由、指標への影響を事務局より説明・・・承認
数値目標の達成状況を事務局より説明・・・承認

今後のまちづくりについて

- ・奥中団地は、1戸80.0㎡と広くファミリータイプである。独居老人・老夫婦世帯には、広すぎる。対策が必要ではないか。
 - ・地元区長としては、集落内を重点的に整備してもらえ、ありがたい。
 - ・町営住宅を中心に新しい住空間が整備出来たが、新規入居者との苦勞があるが、がんばってほしい。
 - ・整備が完了し、道路の価値が上がった。
 - ・独居老人・老夫婦世帯では、建て替えにより家賃が大幅に改訂されることで、年金だけでは、生活出来ない。施策が必要ではないか。
 - ・独居老人・老夫婦世帯が増えれば、自治会の運営が不安
 - ・整備計画策定では、役場内横断的に議論し、詳細な所まで検討してほしい。また、情報は、出来るだけ公表してほしい。
 - ・福祉部局で、シルバーハウジング構想を検討する必要がある。
 - ・新規町営住宅が整備されれば、子供が増え学校にも、活気がでる。
 - ・街路樹の統一をして、景観整備を行い、町の景観に付加価値をつけることが必要では。
 - ・奥中地区では、集落内の清掃や、簡易な修繕などの活動を行っている。
 - ・新規町営住宅入居者には、若い世帯に入ってほしい。集落内に活気がほしい。
 - ・那珂ふれあい館は、開館から精力的にイベントを行っている。中学校でも、総合学習などで利用している。
 - ・県立余暇村公園、那珂ふれあい館、中・八千代の森公園など、宿泊施設と各公園は、連携を図りつつ利用者の増加に努力されている。
- 評価委員会総括(委員長 森川稔)
- ・4つの指標のうち、「来訪者数」については達成できていないが、他の3つの指標については達成していることが報告され、町営住宅の建て替え整備を中心に、地区住民からは高く評価されていることが伺われた。
 - ・今後の取り組みについては、委員会で意見が述べられたように、単身高齢者や高齢者夫婦に対する適切な公営住宅の供給を検討するとともに、奥中の新設公営住宅については、住戸タイプにふさわしいファミリー世帯の入居を優先するなど、町役場の横断的な取り組みによって高齢者の住まいの安全・安心を確保するとともに、奥中地区の活性化に貢献していくことが期待される。奥中地区住民には、奥中団地や関連道路整備をひとつのきっかけとして、まちづくりの取り組みを一層活発にすることが望まれる。その場合、奥中団地の新規入居者にもコミュニティ活動に積極的に参加してもらえような方策をとることが望まれる。また、町役場と地区とが情報を共有し、協働してまちづくりに取り組んでいくことが必要である。
 - ・来訪者数については、各施設のソフト事業をさらに積極的に進めるとともに、合併の効果を生かした広域的な取り組みにより、その増加に努めることが必要である。



まちづくり交付金事

都市再生整備計画(第3回変更)

中地区
(案)

兵庫県 多可町

平成20年2月

変更部:赤字

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	ひょうごけん 兵庫県	市町村名	たかちやう 多可町	地区名	なかちく 中地区	面積	260 ha
計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 19 年度	交付期間	平成 16 年度 ~ 平成 19 年度				

目標	<p>～歴史街道がつなく、都市・田園・歴史・自然のまちづくり～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史街道による賑わいのあるまちづくり ・将来を担う若者の定住を促進するまちづくり ・自然や歴史から学ぶ心豊かな人づくり
----	--

<p>目標設定の根拠</p> <p>まちづくりの経緯及び現況 多可町中区は播磨内陸部に位置し、中区中央部には杉原川が流れ、周囲は緑豊かな里山に囲まれている。中区の中心市街地には、町役場、公共施設等が集積し、その周辺には田園景観を形成する田園ゾーンが広がっている。また、中区北部の妙見山周辺には東山古墳群、県立北播磨余暇村公園、町立那珂ふれあい館（ビジターセンター）等が立地し、自然保養レクリエーションゾーンを形成しており、都市・田園・歴史文化・自然が調和した環境を有している。</p> <p>このような中、平成13年度には国土交通省近畿地方整備局から歴史街道モデル地区に認定され、これを契機に中区内全ての集落でワークショップによるまちの資源の再発見を行い、歴史街道計画整備プランの策定に至った。現在では、むらづくり協議会へと発展し、地域のPR看板、花回廊づくり等が行われており、「あかね坂公園」においては国土交通省の「手づくり郷土賞」に選ばれた。さらに、多可町を含む北播磨地域1市1町（旧1市4町）では地域の歴史資源や自然環境を博物館の展示物と見なした「エコミュージアム」づくり（田園空間整備事業 農林</p> <p>これらを背景に、中区では地域住民及び来訪者が快適に歩ける道づくりを進め、歩車道を分離した都市計画道路等の基幹道路の整備を積極的に実施してきた。しかし、これらを結ぶ町道においては、幅員狭小な未整備区間が残っており、安全な歩行者ネットワークが十分な状況ではない。</p> <p>このような中区において、世帯数は増加傾向にあるが人口は微減傾向にあり、少子高齢化が進んでいる。そこで中区では、今後の高齢化社会への対応並びに環境問題への対応を図ると共に、都市・田園・歴史文化・自然を結び、誰もが暮らしやすいまちづくりの推進に向け、町内を循環するコミュニティバスを平成15年11月より運行している。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の国道、県道、都市計画道路の整備は着実に進んでいるが、これらを結ぶ町道における歩道整備が十分な状況ではないため、基幹道路の歩道、遊歩道並びに主要施設間を有機的にネットワークするよう、歩行者の安全並びに町内の回遊性を向上する道路整備が必要である。 ・住民によるまちづくりを積極的に行ってきたが、少子高齢化に伴いまちづくり活動や将来のまち育て活動への影響が懸念される。そこで、結婚等ともなう公営住宅への入居需要に応え、今後のまちづくり、まち育てを担う若者の定住を促進するため、公営住宅の建替えによる良好な住宅供給が必要である。 <p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>第3次中町総合計画(旧町)では「里山・田園・水につつまれた暮らしのまちづくり」、「だれもが生涯を過ごせる安心のまちづくり」、「にぎわいあふれる交流のまちづくり」等、6つの基本目標のもと、まちづくりの実現に向けた戦略的プロジェクトとして、『若者定住に向けた住宅の整備』、『妙見山周辺地域交流ゾーン整備(歴史街道拠点整備)』、『中町を循環する観光ネットワークの形成』等が位置づけられている。これに基づき中区では、地域資源の活用を図りながら、住民一人ひとりが主人公となるまちづくりを進めている。</p> <p>また、中町住宅マスタープラン(旧町)では、「まちを住みよくする」、「まちを美しくする」、「まちの歴史や文化を研ぐ」、「まちににぎわいをつくる」といった基本方針を掲げている。このような中、公営住宅は、若者の定住を促す住宅の供給、高齢者や障害者に配慮した住宅の供給及び中心市街地活性化の先導等の役割を担い、既存ストックの活用による相当数の住宅整備を進めることとしている。特に、奥中団地(建替推進団地)など、耐用年数が経過している町営住宅については、建替を進めることとしている。</p>

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		目標値		目標年度
			従前値	基準年度	従前値	目標年度	
歩行空間整備率	%	歩行空間整備率 = 歩行空間整備延長 / 計画区域内道路延長 1: 国道、県道、1級町道、2級町道の延長	歴史街道に相應しい歩行者ネットワークの充実したまちづくりを進めるため、計画区域内道路の歩行空間整備率を高め、散策コース設定路線では100%の整備率を目指す。	64.2%	平成16年度	(91.0%) 90.3%	平成20年度
歩行移動時間	分	歩行移動時間 = 道のり ÷ 歩行速度	町営奥中団地の立地する奥中地域やさらに西側の徳畑地域といった中町西部ゾーンと防災拠点である中央公園(町民ランド)とのアクセスが不十分であることに対して、歩行移動時間の短縮を目指す。	17分	平成16年度	14分	平成20年度
建替町営住宅入居者平均年齢	歳	入居者平均年齢 = 入居者年齢の総和 / 入居者数	田園ゾーン内の町営住宅に若者が入居することによる、多自然居住への足掛かりに向け、30歳代前半の新規入居による平均年齢の低下を目指す。	50.1歳	平成16年度	45歳	平成20年度
来訪者数	人/年	県立余暇村公園及び町立那珂ふれあい館への来訪者実態調査による	自然体験や歴史資源を通じての様々な学習による心豊かな人づくりを進めると共に、コミュニティバスや歩道整備によるアクセス性の向上による交流拠点の形成を図り、賑わいのあるまちづくりに向け、県立余暇村公園と町立那珂ふれあい館の来訪者数の増加を目指す。	22万人/年	平成16年度	25万人/年	平成20年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針 1（歴史街道のネットワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多可町中区内には旧ＪＲ鍛冶屋線を利用した遊歩道“歩っ歩の道（ぼっぼのみち）”をはじめ、南北方向の歩行ルートは比較的整備されていることから、これらをネットワークし、中区中心部の公共公益施設及び中区北部の自然保養レクリエーションゾーンへの回遊性を高め、歴史街道モデル地区に相応しい、誰もが安全に安心して歩ける道づくりを行う。 ・多可町中区中心部の公共公益施設及び中区北部の自然保養レクリエーションゾーン等を結ぶ歩行者ネットワークをサポートし、歩行者が快適に歩けるよう、歩行者用の案内標識を設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町道丘山渡瀬橋線他4路線整備事業（基幹事業・道路） ・歩行者用案内標識設置（提案事業・まちづくり活動推進事業） ・都市計画道路中町西線他5路線整備事業（関連事業・道路）
<p>整備方針 2（若者定住の促進）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田園ゾーンに立地する町営奥中団地の建替えにより若者の新規入居を推進し、まちづくり、まち育ての担い手づくり並びに多自然居住への足がかりとなるよう、居住環境や景観に配慮した魅力ある町営住宅の再生を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町営奥中団地建替え事業（基幹事業・公営住宅等整備）
<p>整備方針 3（自然や歴史から学ぶ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北はりま田園空間博物館（エコミュージアム：農水省）の新規展示物（サテライト）でもある町立那珂ふれあい館（ビジターセンター）は、埋蔵文化財センター及び資料館等の複合的な機能を有しており、本施設周辺の東山古墳群、県立余暇村公園と一体的に利用可能な歴史・自然ゾーンを形成し、町内外からの利用促進を図るよう、道路整備、案内標識設置等を行う。 ・町立那珂ふれあい館へのコミュニティバス乗り入れにより、歴史・自然ゾーンのさらなる利用促進を図るため、町立那珂ふれあい館にコミュニティバス停留所を新設する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町道県民余暇村公園線整備事業（基幹事業・道路） ・歩行者用案内標識設置（提案事業・まちづくり活動推進事業） ・都市計画道路中町西線他整備事業（関連事業・道路）
<p>その他</p>	
<p>まちづくりに向けた地元の熱意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中町では歴史街道モデル地区に認定されたことを契機に、町内全ての集落でワークショップによる“まちの資源の再発見”を行った。その後、むらづくり協議会へと発展し、現在では16団体が地元PR看板や花回廊づくり等を積極的に行っている。 ・地域の課題や計画づくりは各協議会、庁内検討組織（まちづくり検討会）、住民代表による検討会（ふだん着会）等によりH12年度から検討を進めてきた。 ・有識者、住民、行政で組織された“東山古墳群検討委員会”においても、町内の豊かな自然と歴史資源をネットワークすることで、兵庫県下でも有数の交流拠点を形成することが可能であるとの意見を受けている。 <p>事業の熟度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市再生整備計画に掲げている事業は、全て住民の参画により計画したものであり、事業について合意形成が図られている。 ・町営住宅建替え事業、町道丘山渡瀬橋線、町道役場公民館線、についてはH16年度予算措置済みであり、早期に事業着手が可能。 ・歩行者用案内標識設置についてもH16年度からの着手可能。 ・中町では住民主体のまちづくりを実施しているところであるが、行政ではこれらハード面の事業を支援すると共に、コミュニティバスの運行により、誰もが暮らしやすいまちづくりを実施している。 <p>事業終了後の継続的なまちづくり活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路植栽の維持管理や公園管理の里親制度を既に実施しており、本事業終了後においても地元での維持管理は継続。 ・都市再生整備計画に掲げている事業は、全て住民の参画により計画したものであり、これまでの地元の活動と同様に、事業終了後もまちづくり活動は継続する。 ・現在、歩っ歩の道を利用したウォーキングが活発に行われており、本事業による歩行空間のネットワーク化により、さらなる利用促進が期待できる。これを契機に、歩っ歩の道の里親制度を誘導し、これまで以上のまちづくり活動に発展させたい。 ・NPO法人「北はりま田園空間博物館」では、自然や名所旧跡等の魅力の案内人を養成することを進めている。本地区のまちづくりの実現により、北播磨の魅力は一層向上し、まちの魅力案内人の活動により中町を含む北播磨の魅力は全県下にアピールされるだけでなく、中町の活性化、さらには住民主体のまちづくりに繋がると考える。 	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	558	交付限度額	223.2	国費率	0.4
---------	-----	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

事業		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費		交付対象事業費	
細項目	開始年度					終了年度	開始年度	終了年度	うち官負担分		うち民負担分			
道路		町道県民余暇村公園線	多可町	直	L=615m,W=6.0	H17年度	H17年度	H17年度	H17年度	22	22	22	0	22
道路		町道奥中7号線	多可町	直	L=65m,W=4.0m	H17年度	H17年度	H17年度	H17年度	9	9	9	0	9
道路		町道奥中1号線	多可町	直	L=475m,W=6.5m	H17年度	H17年度	H19年度	H19年度	33	33	33	0	33
道路		町道役場公民館線	多可町	直	L=130m,W=9.0m	H16年度	H19年度	H16年度	H16年度	6	6	6	0	6
道路		町道丘山渡瀬橋線	多可町	直	L=130m,W=8.7m	H16年度	H18年度	H16年度	H19年度	143	143	143	0	143
公園														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム		-			-									
地域生活基盤施設		-			-									
高質空間形成施設		-			-									
高次都市施設		-			-									
既存建造物活用事業		-			-									
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備		町営奥中団地	多可町	直	22戸	H16年度	H19年度	H16年度	H19年度	304	304	304	0	304
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										517	517	517	0	517

事業		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費		交付対象事業費	
細項目	開始年度					終了年度	開始年度	終了年度	うち官負担分		うち民負担分			
地域創造支援事業	コミュニティバス停留所整備	那珂ふれあい館停留所	多可町	直	1箇所	H18年度	H18年度	H18年度	H18年度	2	2	2	0	2
	公営住宅整備事業等	奥中団地	多可町	直	1箇所	H17年度	H19年度	H17年度	H19年度	39	39	39	0	39
事業活用調査		-			-									0
まちづくり活動推進事業		-			-									0
合計										41	41	41	0	41

合計(A+B) 558

